

# Shionogi Business Report

第142期【中間】

平成18年4月1日～平成18年9月30日

# 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第142期(2006年度)上半期の事業概況をご報告申し上げるにあたり、この間に株主の皆さまから賜りましたご協力、ご支援に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。

当中間期の国内医薬品業界におきましては、増大する医療費の抑制に向けての議論を背景に、医薬品企業の事業構造に大きな変化を与える改革が進展しております。特に、本年4月におきましては業界平均6.7%の薬価改定が実施され、国内医薬品の市場環境は一層厳しい環境におかれています。こうした環境の中、国内医薬品各社は統合、再編や医療用医薬品事業への経営資源の集中化などを活発化させており、グローバル企業を含めた販売、研究開発面での競争が一層激しさを増しております。

このような状況におきまして、当社グループは、製薬企業としての長期的な発展を目指す第二次中期経営計画(2005年4月～2010年3月)を策定し、昨年4月から取り組みを開始しました。2年目であります今年度におきましても厳しい環境変化の中、目標達成に向けての具体的な戦略を一步一步着実に推し進めております。この第二次中期経営計画におきましては、製薬企業として医療に貢献することを通じて存在感を示すべきことをあらためて確認し、その目標を実現するため、研究開発面では、これまでの感染症領域に加えて、医療に貢献できる第二、第三の得意領域の確立に注力し、また、営業面で、常に医療ニーズに迅速に対応できるMRの育成、強化に注力しております。なお、昨年4月に発売しました高コレステロール血症治療薬「クレストール」につきましては、日本人での安全性に関するデータが少なかったことから、日本において共同で販

売を行いますアストラゼネカ社とともに製造販売後の使用成績調査を集中的に進めてまいりました。その結果、3,500例を超える中間解析結果によりまして安全性、有効性が確認されましたので、当社およびアストラゼネカ社は本年9月25日より通常の販売体制に移行いたしました。今後「クレストール」が高コレステロール血症治療薬として大きく医療に貢献できるものと確信しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

垣野元三

## ◆ シオノギの基本方針

「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」

## ◆ シオノギの行動方針

シオノギの基本方針(シオノギの心)を、具現化するためのものです

### ミッション

経営理念・  
企業理念

**患者・家族の方々のQOL向上を実現するために、  
患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い医薬品をお届けする**

私たちは基本方針に掲げる「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という理念に基づき、「患者・家族の方々のQOL向上を実現するために、患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い医薬品をお届けする」ことをミッションとし、以下の活動を通じてその具現化に専念します。

独創的な医薬品を創製し、必要としている人々に一刻も早くお届けします。

必要としている人々の声を速やかに製品に反映し、高い品質の医薬品を、安定的、経済的に製造・供給します。

適正使用に必要な情報を適時的確に提供し、医薬品の有用性をますます高めます。

### ビジョン

中長期戦略・  
行動目標

**存在感のある強いシオノギ  
私たち自身がやりがい、誇り、夢の持てるシオノギ**

私たちは、私たちのミッション実現のため、世界中で患者・家族・医療従事者の方々や社会に認められる事業展開を行なう「存在感のある強いシオノギ」であるとともに、「私たち自身がやりがい、誇り、夢の持てるシオノギ」であることを目指し、第2次中期経営計画を達成します。

### バリュー

行動規範

**顧客志向、信頼、プロフェッショナル、現場重視、個の尊重**

私たちは、私たちのミッション、ビジョンを実現するために、上記の5つの点を最も重要な行動規範とすることを決意しました。

この5つの誓い(シオノギバリュー)を、高い倫理観をもって実行することにより、人々の共感を得る会社でありつづけたいと思います。

## ◆ 第二次中期経営計画

### 意義

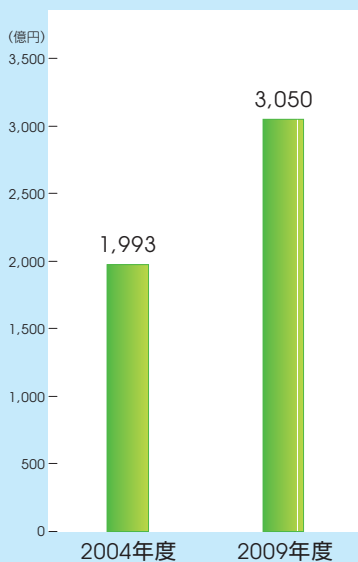
- 1 第一次中期経営計画では、基盤整備の時期と位置付け、医療用医薬品事業への集約化を図ってきた。2005年度より開始した第二次中期経営計画は、これまでの成果を基盤として、10年後、15年後にシオノギが益々発展し、社会に貢献できる企業として存続していくために、必ずやり遂げなければならない“コミットメント”として掲げるものである。
- 2 したがって、この5年間は、環境変化の大変厳しい医薬品業界にあって、常に変化に対応し、さまざまな機会を貪欲に利用し、重点領域に資源投下を集約し、感染症領域に加え、第二、第三の重点領域を確立していく“集中期間”と位置付ける。

### 骨子

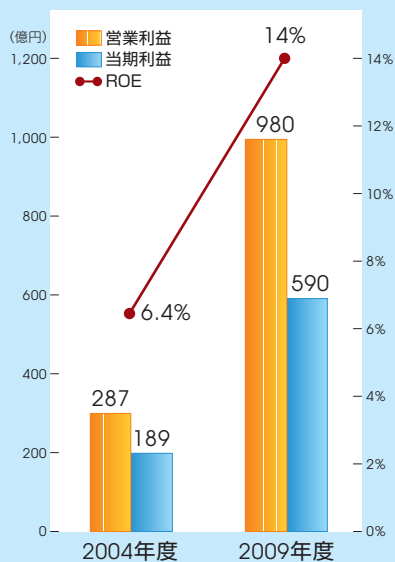
## 基盤整備から“飛躍への胎動”へ

- 1 **研究開発における重点領域の明確化**
  - 感染症治療薬の充実、そして疼痛、メタボリックシンドロームを新たな重点領域に
  - 2009年までに新たにフェーズⅡ以降に最低5品目を創出し、第二、第三の Crestor 規模の新薬創製
  - 導入・導出戦略の積極的展開による切れ目のないパイプラインの充足
  - 外部リソースの積極的活用による研究・開発の効率化・成功確率の向上
  - 早期からのライフサイクルマネジメントによる製品ポテンシャルの最大化
- 2 **存在感のある強い営業の確立**
  - ドリペネム、モキシフロキサシンの投入による急性期医療におけるDetailの拡充、そしてNO.1シェアの抗菌薬の更なるプレゼンス拡大
  - がん疼痛からの解放・QOLの更なる改善—完全除痛に徹底的にこだわるDetailの実践
  - Crestorの市販後調査の徹底とエビデンス・信頼の確立、そして製品価値の最大化へ
  - 領域疾患別・診療科別のDetail効率の向上と販売シナジーの拡大
  - 組織横断的なサポート体制の構築による営業支援の強化
  - “医療ニーズを常に考えるMR”の育成強化
- 3 **感染症領域からの着実な海外展開**
  - シオノギUSAの機能強化と感染症領域でのプレゼンス拡大、および中国市場への展開
  - グローバル競争力のある人材育成・調達

## 2009年度 数値目標 (連結)



売上 3,050億円



営業利益 980億円

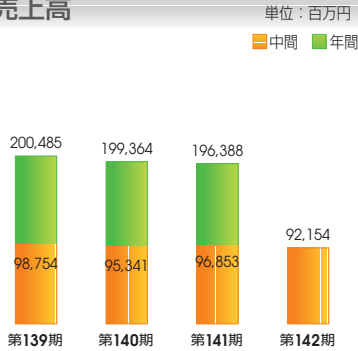
当期利益 590億円

ROE 14%

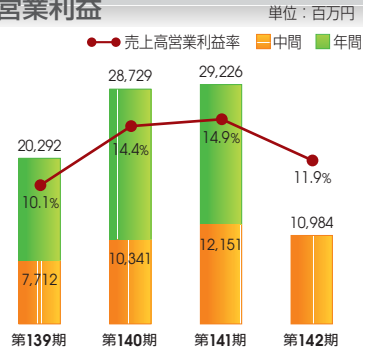
※カプセル事業売却を考慮して、2006年5月に目標数値を修正致しました。

# Financial Highlights 連結財務指標

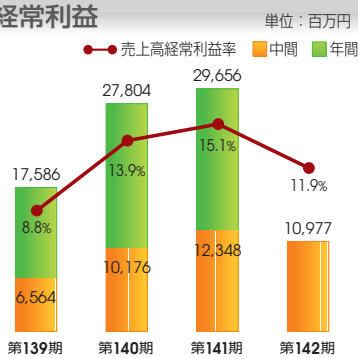
## 売上高



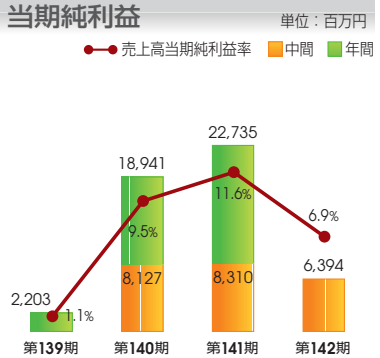
## 営業利益



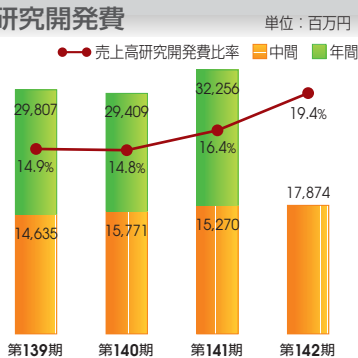
## 経常利益



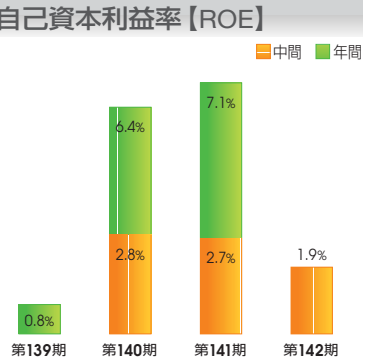
## 当期純利益



## 研究開発費



## 自己資本利益率【ROE】



# 営業の概況

当中間期の連結の業績は、売上高は921億5千4百万円で前年同期に比べ4.9%の減となりました。

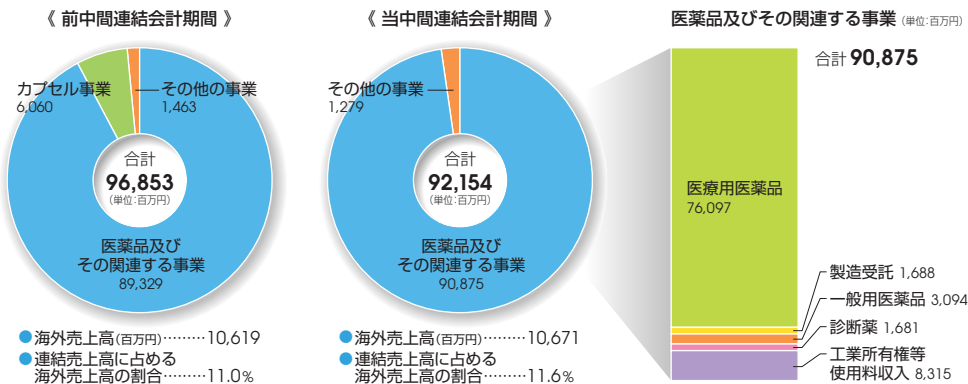
**医薬品及びその関連する事業**では、医療用医薬品におきまして、昨年発売しましたニューキノロン系抗菌剤「アベロックス」、カルバペネム系抗生物質「フィニバックス」の売上が増加いたしました。また、本年9月下旬より通常販売に移行しました高コレステロール血症治療薬「 Crestol」の売上の増加はありましたが、主力品である抗生物質につきまして、薬価改定や市場の縮小があり、医療用医薬品の売上は減少となりました。また、一般用医薬品、診断薬の売上も減少しました。一方、アストラゼネカ社による「 Crestol」の海外での販売が増加したことにより、工業所有権等使用料収入が大幅に増加いたしました。この結果、「医薬品及びその関連する事業」全体の売上高は908億7千5百万円で前中間期に比べ1.7%の増加となりました。

**その他の事業**の売上高は、12億7千9百万円で前年同期比12.6%の減となりました。

なお、前年同期に60億6千万円の売上高であった**カプセル事業**につきましては、昨年10月に事業売却し連結から除外されており、当中間期の売上高減少の要因の一つとなっています。

**利益面**におきましては、売上は減少となりましたが、工業所有権等使用料収入の増加に加えて、原価低減努力による原価率改善が薬価改定などのマイナス要因をカバーし、売上総利益は微増となりました。一方、研究開発活動の順調な進捗に伴い、研究開発費が大幅増となりましたため、当中間期の営業利益は109億8千4百万円で前年同期比9.6%の減となり、経常利益も109億7千7百万円で前年同期比11.1%の減となりました。なお、中間純利益は、前年中間期におきまして投資有価証券売却益などの特別利益を計上しましたため、前年同期比23.1%減の63億9千4百万円となりました。

## ◆セグメント別売上



## 研究開発の状況について

研究開発活動の状況につきましては、重点領域として絞り込んだ「感染症」「疼痛」「メタボリックシンドローム」の3領域への資源の集中を明確化し、研究開発の各ステージを確実に遂行できる体制の構築を目指して組織の強化にも取り組んでおります。現在、国内では、抗うつ薬、高血圧症治療薬、抗菌薬などの薬剤の開発を進めており、海外では、シオノギUSA, Inc.を拠点として肥満症治療薬などの開発を進めております。また、欧米諸国をテリトリーとして導出したしておりますカルバペネム系抗生物質製剤「ドリペネム（一般名）」につきましては、引き続きジョンソン・エンド・ジョンソン社によりまして欧米での開発が進められております。

こうした活動の結果、当中間期における当社グループ全体の研究開発費は178億7千4百万円となり、売上高に対する比率は19.4%となりました。

◆新製品	6月発売	フィニバックスキット カルバペネム系抗生物質	9月発売	セトロタイド 体外受精/胚移植施行時における早発排卵防止薬
------	------	---------------------------	------	----------------------------------

## ◆新薬開発状況 (平成18年11月現在)

●国内開発品 ●海外開発品

承認	● S-8116	癌疼痛治療薬
承認申請中	● SCH29851	アレルギー性疾患治療薬
申請準備中	● SR47436	高血圧症治療薬
フェーズⅢ	● S-7701 ● LY248686	特発性間質性肺炎治療薬 抗うつ薬
フェーズⅡ	● S-2367 ● S-0139 ● NS75A ● S-013420 ● LY248686 ● NS75B	抗肥満薬 脳血管障害治療薬 子宮筋腫治療薬 新規マクロライド系抗生物質（経口） 糖尿病性神経因性疼痛治療薬 前立腺肥大症治療薬
フェーズⅡ準備中	● S-364735	HIV感染症治療薬
フェーズⅠ	● S-777469	抗そう痒薬
フェーズⅠ準備中	● S-0373	脊髄小脳変性症治療薬



## トピックス

### 北大に共同研究施設設立の基本合意を締結

シオノギと北海道大学(総長:中村 陸男)は、産学連携の理念にのっとり、両者の研究交流を促進するため、北海道大学所有の土地へのシオノギ所有の研究施設の建設ならびに共同使用に関し、基本合意書を締結しました。日本の国立大学内に民間企業の研究施設を建設するのは本邦初となります。

こうした共同研究への積極的な取り組みを通じて、北海道大学の持つ糖鎖基盤技術やタンパク質構造解析技術などの創薬基盤技術の改良が促進され、さらなる創薬シーズの発見が期待されます。



北大・中村総長(左)とシオノギ・塩野社長(右)

## 設備投資について

当中間期における当社グループ全体の設備投資額は総額 54 億円で、新製品の生産や製造受託事業の拡大を目的とした製造設備の増強や、研究設備の拡充などが中心となっております。

## 利益配分について

当社は、中長期的な視点での企業価値増大を図るため、事業投資を積極的に行うとともに、配当につきましても、各期の業績に応じた配分を基本におきながら、これを安定的に向上させることを目指します。また、自己株式の取得についても、資本効率の向上の観点で機動的に活用してまいります。

### ● 当期の配当金について ●

当期の中間配当につきましては、1株当たり8円とし、お支払いは12月1日からとさせていただきます。

# 決算の概要

## 連結 中間連結貸借対照表

	第142期 中間期	第141期 中間期	増減額
科目	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
<b>【資産の部】</b>			
<b>流動資産</b>	<b>202,051</b>	<b>208,327</b>	<b>△6,276</b>
現金及び預金	82,932	90,652	△7,720
受取手形及び売掛金	64,113	69,912	△5,799
たな卸資産	31,418	27,184	4,234
繰延税金資産	4,542	6,321	△1,779
その他	19,056	14,269	4,787
貸倒引当金	△12	△13	1
<b>固定資産</b>	<b>223,104</b>	<b>219,355</b>	<b>3,749</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>66,077</b>	<b>64,251</b>	<b>1,826</b>
建物及び構築物	30,730	30,759	△29
機械装置及び運搬具	11,180	9,899	1,281
土地	14,811	14,805	6
建設仮勘定	3,952	3,601	351
その他	5,402	5,184	218
<b>無形固定資産</b>	<b>6,772</b>	<b>7,131</b>	<b>△359</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>150,253</b>	<b>147,972</b>	<b>2,281</b>
投資有価証券	129,040	129,037	3
前払年金費用	17,782	15,360	2,422
繰延税金資産	51	50	1
その他	3,544	3,686	△142
貸倒引当金	△165	△162	△3
<b>資産合計</b>	<b>425,155</b>	<b>427,682</b>	<b>△2,527</b>

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額  
2. 保証債務

159,503百万円  
102百万円

158,513百万円  
116百万円

**連結** 中間連結貸借対照表

	第142期 中間期	第141期 中間期	増減額
科目	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
<b>【負債の部】</b>	<b>85,796</b>	<b>90,249</b>	<b>△4,453</b>
流動負債	<b>48,591</b>	<b>51,877</b>	<b>△3,286</b>
支払手形及び買掛金	14,427	10,227	4,200
未払法人税等	1,696	12,209	△10,513
引当金			
賞与引当金	6,827	7,482	△655
その他の引当金	989	1,187	△198
その他	24,649	20,771	3,878
固定負債	<b>37,205</b>	<b>38,371</b>	<b>△1,166</b>
繰延税金負債	25,121	23,276	1,845
引当金			
退職給付引当金	8,486	8,318	168
その他の引当金	185	240	△55
長期未払金	2,451	5,569	△3,118
その他	959	965	△6
<b>【少数株主持分】</b>	—	<b>247</b>	—
<b>【資本の部】</b>	—	<b>337,185</b>	—
資本金	—	21,279	—
資本剰余金	—	20,227	—
利益剰余金	—	266,469	—
その他有価証券評価差額金	—	38,116	—
為替換算調整勘定	—	△156	—
自己株式	—	△8,750	—
負債、少数株主持分及び資本合計	—	<b>427,682</b>	—
<b>【純資産の部】</b>	<b>339,358</b>	—	—
株主資本	<b>301,980</b>	—	—
資本金	21,279	—	—
資本剰余金	20,227	—	—
利益剰余金	269,394	—	—
自己株式	△8,920	—	—
評価・換算差額等	<b>37,109</b>	—	—
その他有価証券評価差額金	37,298	—	—
為替換算調整勘定	△189	—	—
少数株主持分	<b>268</b>	—	—
負債純資産合計	<b>425,155</b>	—	—

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております

**連結** 中間連結損益計算書

科 目	第142期	第141期	増減額
	中間期	中間期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
売上高	92,154	96,853	△4,699
売上原価	30,609	35,764	△5,155
売上総利益	61,544	61,089	455
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	50,560 (17,874)	48,937 (15,270)	1,623 (2,604)
営業利益	10,984	12,151	△1,167
営業外収益	1,599	1,799	△200
受取利息	477	312	165
受取配当金	499	438	61
為替差益	—	432	△432
不動産賃貸料	290	309	△19
その他	331	306	25
営業外費用	1,606	1,603	3
支払利息	47	89	△42
寄付金	474	474	0
固定資産処分損	282	215	67
その他	801	823	△22
経常利益	10,977	12,348	△1,371
特別利益	509	2,733	△2,224
過年度共同開発費戻入益	389	—	389
投資有価証券売却益	120	2,589	△2,469
固定資産売却益	—	140	△140
貸倒引当金戻入益	—	3	△3
特別損失	—	972	△972
固定資産処分損	—	531	△531
減損損失	—	440	△440
税金等調整前中間純利益	11,487	14,109	△2,622
法人税、住民税及び事業税	1,552	4,574	△3,022
法人税等調整額	3,517	1,202	2,315
少数株主利益(△)	△23	△20	△3
中間純利益	6,394	8,310	△1,916

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております

## ◆中間連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	第142期 中間期 (百万円)	第141期 中間期 (百万円)
税金等調整前中間純利益	11,487	14,109
減価償却費	4,156	4,255
資産・負債増減等	△1,518	△832
法人税等の支払額	△11,950	△9,022
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,175</b>	<b>8,510</b>
定期預金の払戻・預入等	△15,062	347
有形固定資産の取得・売却等	△4,147	△2,321
投資有価証券の取得・売却等	△903	3,524
その他	△844	△2,807
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△20,957</b>	<b>△1,257</b>
配当金の支払額	△3,400	△2,634
借入・返済等	△515	△19,836
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△3,916</b>	<b>△22,471</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△53	342
現金及び現金同等物の増減額	△22,751	△14,875
現金及び現金同等物の期首残高	76,142	95,719
非連結子会社を合併したことに伴う 現金及び現金同等物増加額	—	23
現金及び現金同等物の中間期末残高	53,390	80,866

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております

## ◆通期の見通し

連結	
売上高	2,050億円 (前期比 4.4%増)
営業利益	310億円 (前期比 6.1%増)
経常利益	310億円 (前期比 4.5%増)
当期純利益	180億円 (前期比 20.8%減)
単体	
売上高	1,930億円 (前期比 5.2%増)
営業利益	275億円 (前期比 6.7%増)
経常利益	290億円 (前期比 3.2%増)
当期純利益	170億円 (前期比 36.2%減)

## キャッシュ・フローの状況

当中間期の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、税金等調整前中間純利益の減少及び前期にかかる法人税等の支払いが増加したことなどにより、前年同期に比べ63億3千5百万円少ない21億7千5百万円のプラスとなりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」では、設備投資や3ヶ月超預金などの増加により、209億5千7百万円のマイナスとなりました。

また、「財務活動によるキャッシュ・フロー」では、配当金の支払などにより、全体では39億1千6百万円のマイナスとなりました。

この結果、当中間期末の「現金及び現金同等物の中間期末残高」は、前期末に比べ227億5千2百万円少ない533億9千万円となりました。

下半期において、キャッシュ・フローに影響を与えると予想される事象は以下のとおりです。

・下半期における設備投資額は約76億円、減価償却費は約47億円を見込んでおります。

## 通期の見通し

主力の医療用医薬品におきましては、より一層厳しい販売環境にありますが、本年9月より通常販売に移行しました「クレストール」を中心とした新製品の販売拡大、また、工業所有権等使用料収入の増加も期待されることから、増収を見込んでおります。

利益面では、研究開発や販売拡大に向けての取り組みの促進によりまして費用の増加が見込まれますが、販売の増加や工業所有権等使用料収入の増加により、営業利益、経常利益ともに増益を見込んでおります。当期純利益につきましては、前期にカプセル事業売却による特別利益があったため、減益を見込んでおります。

## 単体 中間貸借対照表

(平成18年9月30日現在)

科目	金額 (百万円)	科目	金額 (百万円)
<b>資産の部</b>	<b>407,521</b>	<b>負債の部</b>	<b>72,917</b>
<b>流動資産</b>	<b>189,276</b>	<b>流動負債</b>	<b>38,555</b>
現金及び預金	75,015	買掛金	11,999
受取手形	199	賞与引当金	6,603
売掛金	61,100	その他の引当金	930
有価証券	4,006	その他	19,022
たな卸資産	29,198	<b>固定負債</b>	<b>34,362</b>
その他	19,762	繰延税金負債	25,024
貸倒引当金	△6	退職給付引当金	8,445
<b>固定資産</b>	<b>218,244</b>	その他の引当金	185
有形固定資産	<b>53,604</b>	その他	706
建物	25,474	<b>純資産の部</b>	<b>334,603</b>
その他	28,129	<b>株主資本</b>	<b>297,304</b>
無形固定資産	<b>6,195</b>	資本金	21,279
投資その他の資産	<b>158,444</b>	資本剰余金	20,227
投資有価証券	131,859	利益剰余金	264,718
その他	26,750	自己株式	△8,920
貸倒引当金	△165	<b>評価・換算差額等</b>	<b>37,298</b>
<b>資産合計</b>	<b>407,521</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>407,521</b>

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。 2. 有形固定資産の減価償却累計額 152,013百万円  
3. 保証債務 102百万円 4. 自己株数 10,609,787株

## 単体 中間損益計算書

(平成18年4月1日～  
平成18年9月30日)

科目	金額 (百万円)
売上高	88,021
売上原価	29,337
<b>売上総利益</b>	<b>58,683</b>
販売費及び一般管理費	49,609
<b>営業利益</b>	<b>9,073</b>
営業外収益	2,550
営業外費用	1,525
<b>経常利益</b>	<b>10,099</b>
特別利益	509
特別損失	386
<b>税引前中間純利益</b>	<b>10,222</b>
法人税、住民税及び事業税	1,030
法人税等調整額	3,539
<b>中間純利益</b>	<b>5,653</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております

## 肩こりからくる 頭痛・肩こり痛・熱に 非ピリン系解熱鎮痛薬 (ビタミンB1配合) 「セデス®V」新発売

どうせなら、頭痛も肩こり痛も  
まとめて、ね。

肩こりは、頭痛の原因にもなる。それは、意外と知られていない事実です。  
セデスVは、この2つの関係に着目。痛みのもとになるコリをほぐす、ビタミンB1を  
加えました。肩こり痛にも、頭痛にも、まとめて効く。セデスV、新発売です。

痛くなったら、すぐ  
**セデス**

鎮痛成分が  
痛みに届く。

ビタミンB1が  
肩のコリをほぐす。

医薬品

「セデス®V」は、解熱鎮痛成分に加え、ビタミンB1誘導體 塩酸ジセチアミンが乳酸の代謝を改善し、筋肉の緊張を緩和することにより痛みをおさえる働きを助けます。肩こりからくる頭痛、緊張型頭痛に鎮痛効果をあらわし、悪寒・発熱時等に消耗されるビタミンB1を補います。



容量：10錠・30錠

**新セデス®錠**

ACE処方胃がやさしい  
頭痛・歯痛・生理痛に



容量：20錠・40錠

**セデス®ハイ**

インプロビルアンチピリン  
つらい痛み



容量：10錠・20錠

**セデス®キュア**

小粒の  
イブプロフェン  
生理痛・腰痛に



容量：  
6錠・18錠・30錠

## ◆株式の状況

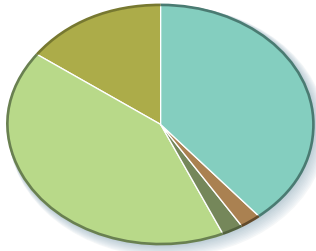
- 会社が発行する株式の総数 1,000,000,000株
- 発行済株式の総数 351,136,165株
- 株主数 21,969名
- 株主1人当たり平均持株数 15,983株
- 大株主

氏名 又は 名称	所有株式数 (単位：千株)	出資比率 (%)
1 住友生命保険相互会社	18,604	5.30
2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,002	4.84
3 ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	16,387	4.67
4 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	14,608	4.16
5 ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	13,667	3.89
6 日本生命保険相互会社	13,138	3.74
7 ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	12,706	3.62
8 塩野義製薬株式会社	10,609	3.02
9 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・三井住友銀行退職給付信託口)	9,485	2.70
10 日本興亜損害保険株式会社	9,422	2.68



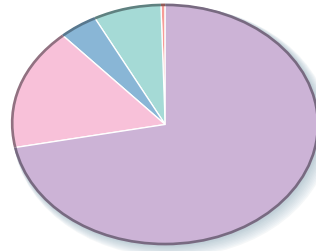
### ◆株式の分布状況

< 所有者別株式分布 >



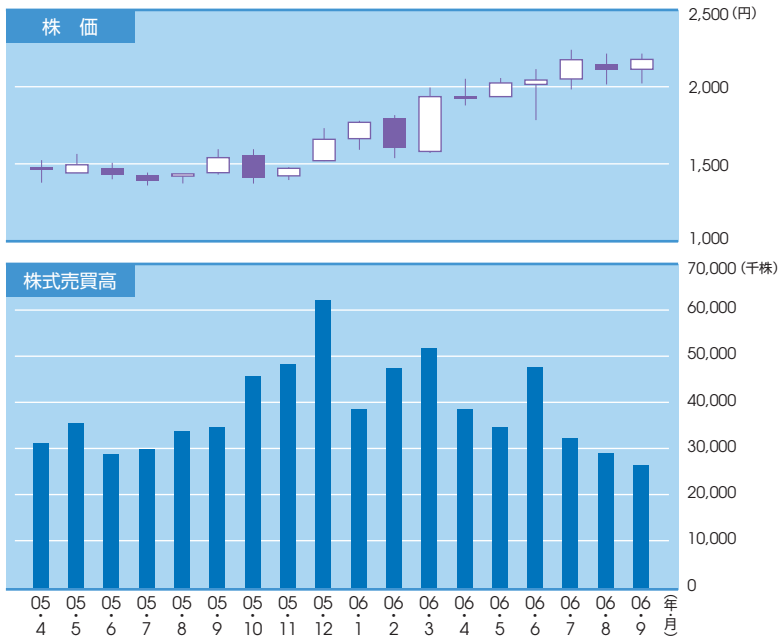
金融機関	38.89%
証券会社	2.22%
その他の法人	2.22%
外国法人等	41.64%
個人その他	15.03%

< 所有数別株式分布 >



1,000千株以上	71.91%
100千株以上	16.42%
10千株以上	4.07%
1千株以上	7.16%
1千株未満	0.44%

### ◆株価および株式売買高の推移



# 概要

## 会社の概要 (平成18年9月30日現在)

商号	塩野義製薬株式会社 (SHIONOGI & CO.,LTD.)
創業	1878年(明治11年)3月17日
会社設立	1919年(大正8年)6月5日
決算期	3月31日
事業内容	医薬品、診断薬などの製造・販売
資本金	212億79百万円
従業員数	4,397名



<http://www.shionogi.co.jp/>  
(9月にホームページをリニューアルいたしました)

## 役員 (平成18年9月30日現在)

### 取締役

代表取締役 会長	宮本 梨
代表取締役 社長	塩野 元三
取締役	戸梶 幸夫
取締役	手代木 功
取締役	三野 泰宏

### 監査役

常勤監査役	佐々木 輝夫
常勤監査役	大谷 光昭
監査役	浦上 敏臣
監査役	永田 武全

(注) 監査役 浦上敏臣 及び 監査役 永田武全は、  
会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

### 執行役員

専務執行役員	手代木 功
常務執行役員	福田 卓雄
常務執行役員	久米 龍一
執行役員	戸梶 幸夫
執行役員	三野 泰宏
執行役員	近藤 裕郷
執行役員	藤井 一義
執行役員	山田 憲生
執行役員	小松 聰司
執行役員	前田 均
執行役員	納田 敬一朗
執行役員	武田 信三

# 事業所

## 本 社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号  
TEL 06-6202-2161

## 支 店

### 東 京 支 店

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号  
シオノギ渋谷ビル  
TEL 03-3406-8111

### 名 古 屋 支 店

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目9番地  
スカイオアシス栄

TEL 052-957-8271

### 福 岡 支 店

〒810-0072 福岡市中央区長浜1丁目1番35号  
新KBCビル

TEL 092-737-7750

### 札 幌 支 店

〒064-0807 札幌市中央区南七条西1丁目13番地  
第3弘安ビル

TEL 011-530-0360

## 研 究 所

### 中 央 研 究 所

〒553-0002 大阪市福島区鷺州5丁目12番4号  
TEL 06-6458-5861

### 新 薬 研 究 所

〒561-0825 豊中市二葉町3丁目1番1号  
TEL 06-6331-8081

### 医 学 研 究 所

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号  
TEL 06-6382-2612

### 油 日 ラ ボ ラ ト リ ー ス

〒520-3423 甲賀市甲賀町五反田1405番地  
TEL 0748-88-3281

## 工 場

### 摂 津 工 場

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号  
TEL 06-6381-7341

### 金 ヶ 崎 工 場

〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山7番地  
TEL 0197-44-5121

## 事 業 所

### 杭 瀬 事 業 所

〒660-0813 尼崎市杭瀬寺島2丁目1番3号  
TEL 06-6401-1221

## 物 流 セ ン タ ー

### シ オ ノ ギ 物 流 セ ン タ ー

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号  
TEL 06-6381-7342

### シ オ ノ ギ 東 京 物 流 セ ン タ ー

〒270-0233 野田市船形字上原壱1513番地  
中央運輸株式会社 野田営業所内  
TEL 04-7127-3000

## 海 外

(事業所・関係会社)

Shionogi & Co.,Ltd.

Taipei Office

Transworld Commercial Center 4F,  
No.2, Sec.2, Nanking E. Road  
10408,

Taipei, Taiwan, R.O.C.

Tel: 02-2551-6336

Taiwan Shionogi & Co., Ltd.

Transworld Commercial Center 4F,  
No.2, Sec.2, Nanking E. Road  
10408,

Taipei, Taiwan, R.O.C.

Tel: 02-2551-6336

Shionogi USA, Inc.

100 Campus Drive, Florham Park,  
NJ 07932, U.S.A.

Tel: 973-966-6900

## 株主メモ

◇ 決 算 期	3月31日
◇ 定時株主総会	6月
同総会権利行使 株 主 確 定 日	3月31日
◇ 期末配当金受領 株 主 確 定 日	3月31日
中間配当金受領 株 主 確 定 日	9月30日
◇ 単 元 株 式 数	1,000株
◇ 公 告 掲 載 方 法	電子公告 当社インターネットホームページ ( <a href="http://www.shionogi.co.jp/">http://www.shionogi.co.jp/</a> ) に掲載しています。
◇ 上場証券取引所	大阪・東京
◇ 証 券 コ ー ド	4507
◇ 株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社 大阪市中央区北浜4丁目5番33号
同 事務取扱場所	住友信託銀行株式会社 証券代行部 大阪市中央区北浜4丁目5番33号
同 郵便物送付先・ 電話照会先	住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1番10 〒183-8701 電話：(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店

### ◆各種諸届について

住所、届出印、法人株主の代表者、役職名、氏名、商号、配当金の振込口座の変更、および単元未滿株式の買取請求は、住友信託銀行 全国各支店にて所定の用紙でお申し込みください。ただし、証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

### ◆単元未滿株式の買取について

単元未滿株式(1株～999株で、登録株(名簿上の株式)を含む)の1株当たりの買取価格は、住友信託銀行の窓口にご請求があった日の大阪証券取引所の最終価格となります。

\* ご請求日に大阪証券取引所で売買取引がなかったときは、東京証券取引所の最終株価となります。

\* また、買取代金から予め定めております手数料を徴収させていただきますのでご了承ください。

### ◆株券を喪失されたときの諸手続きについて

お手持の株券を盗難、紛失、焼失などにより喪失された場合の諸手続きは、上記株主名簿管理人にてお受けいたします。